

# 八 私の良心

1. 散歩に出かける
  - ・ さつきの奥さんの記憶。
  - ・ お嬢さんが家へ帰つてからの想像。
2. Kに対する私の良心の復活
  - ・ Kの対応。
    - ・ いつものとおり机に向かつて書見をしていました。
    - ・ いつものとおり書物から目を離して、私を見ました。
    - ・ いつものとおり今帰つたのかとわずに、病気はいいのかと言つた。
  - ←
  - ・ 私を疑っていない。
  - ・ 私の気持ち
    - ・ 彼の前に手を突いて謝りたくなつた。
    - ←→
    - ・ 奥に人がいるので、Kに謝れば私のしたことがばれる。
3. 私と葛藤
  - ・ なんとかして私とお嬢さんの婚約をKに伝えなければならない。
  - ① 自分で話す。
    - ・ 論理的に弱点を持っている
    - ・ Kから相談を受けていたのに、Kを出し抜いてお嬢さんを手に入れた
  - ② 奥さんに頼んでありのままを告げてもらう。
    - ・ 奥さんはKから私の裏切りを知る。
  - ③ 奥さんにこしらえごとを話してもらう。
    - ・ お嬢さんの方から私に求婚した
    - ・ 奥さんに理由を詰問される。
    - ・ 私から私の裏切りを話さなければならない。
  - ・ 自分の弱点を奥さんやお嬢さんにさらけ出さなければならない。
  - ・ 結婚する前から恋人の信用を失うことは耐えきれない不幸。
  - ・ 正直な道を歩くつもりで、つい足を滑らしたばかり。
  - ・ お嬢さんへの恋 Kを裏切った
  - ・ 天と私の心
  - ・ 「則天去私」
4. 最後の打撃を最も落ち着いた驚きをもって迎えた。
  - 私とお嬢さんの婚約
    - ア・ 私が お嬢さんを好きなことに気づいていた。
    - イ・ お嬢さんを諦めていたからどうしてもよかった。
    - ウ・ 自殺を覚悟していたからどうしてもよかった。
    - エ・ 驚くことはプライドが許さなかった。
5. 策略で勝つても人間としては負けた。
  - ・ Kを出し抜いてお嬢さんへの恋を奥さんに伝えたこと。
  - ・ 以前と異なつた様子を見せない